

# 舟形町橋梁長寿命化修繕計画



令和 5 年 3 月

山形県 舟形町 地域整備課

# 目 次

1. 背景.....	P. 1
2. 舟形町の特性把握 .....	P. 2
3. 橋梁長寿命化修繕計画の基本方針 .....	P. 3
4. 管理橋梁の現状把握 .....	P. 5
5. 橋梁点検および健全性判定.....	P. 6
6. 維持管理区分の設定 .....	P. 7
7. 優先度評価の実施 .....	P. 8
8. 橋梁長寿命化修繕計画の策定 .....	P. 9
9. 計画策定効果の算出 .....	P. 11
10. 計画策定担当部署・意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者	P. 11

## 1. 背景

舟形町では、50 橋の橋梁を管理しています。(令和5年3月現在)

管理橋梁の大半は、1970 年～1980 年にかけて架設されています。

今後、これらの橋梁の老朽化が急速に進んでいき、大規模な補修や仮設工事の実施などが必要となり、維持管理に要する費用が増大していくことが懸念されます。

道路利用者への安全・安心なサービス提供のため、このような課題を解決することが求められています。

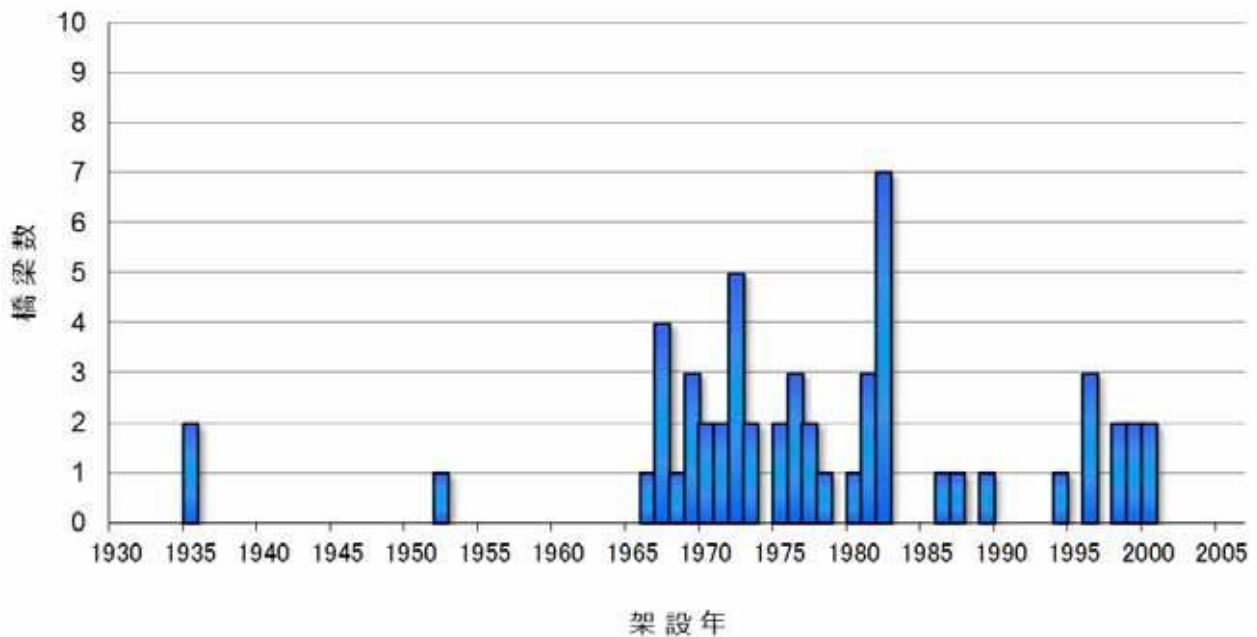


図1 管理橋梁の架設年

現在供用から 50 年以上経過した橋梁は 32%を占める状態にあります。

さらに、10 年後の 2033 年には7割、20 年後の 2043 年には8割を占めることになります。

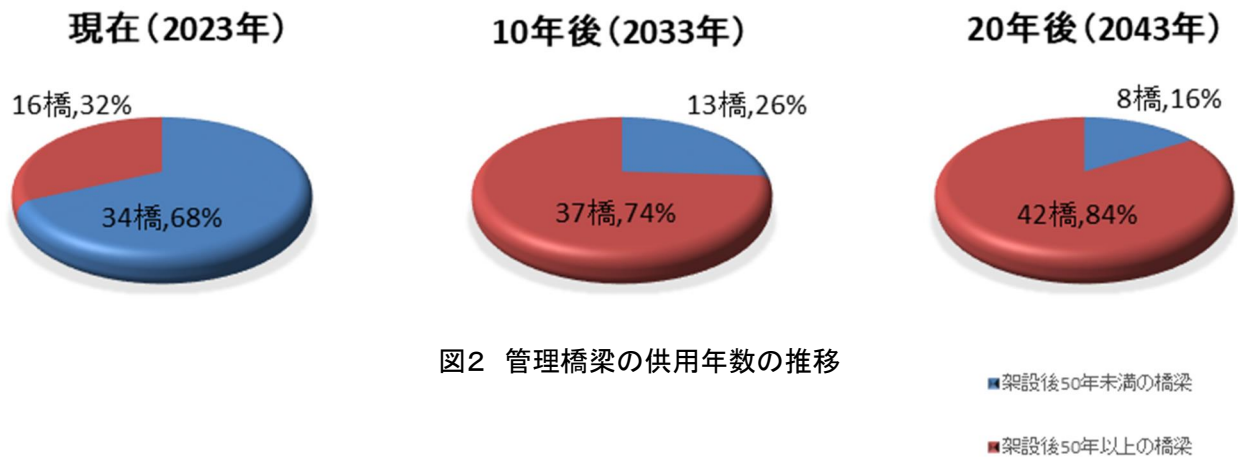


図2 管理橋梁の供用年数の推移

## 2. 舟形町の特性把握

### ■ 地域の特徴

- ・県の内陸北部、奥羽山脈の西側に位置し、町の大部分が山地に囲まれた地域です。
- ・冬期は積雪が多く、除雪・凍結防止剤散布作業が必要になります。
- ・朝夕の気温差が大きい気候となっています。

### ■ 路線の特徴

- ・町を東西に横断する最上小国川と、その支流沿いに点在する集落を結ぶ道路網を有し、多くの渡河橋を抱えています。



一関大橋



長尾橋

### 3. 橋梁長寿命化修繕計画の基本方針

今後訪れる急速な老朽化橋梁の増加に伴い、橋梁の維持管理コストが膨大となり、資金不足のために橋梁の回復が図れない事態に陥る可能性が考えられます。これは道路利用者への安全・安心なサービスの提供が困難になることにつながります。

未然に防止するためには、計画的・効率的な管理の実施が不可欠です。積極的な予防保全を実施することで、安全性を確実に確保することが重要になります。

橋梁長寿命化は、それらを踏まえ、以下に示すフローに従って策定していきます。

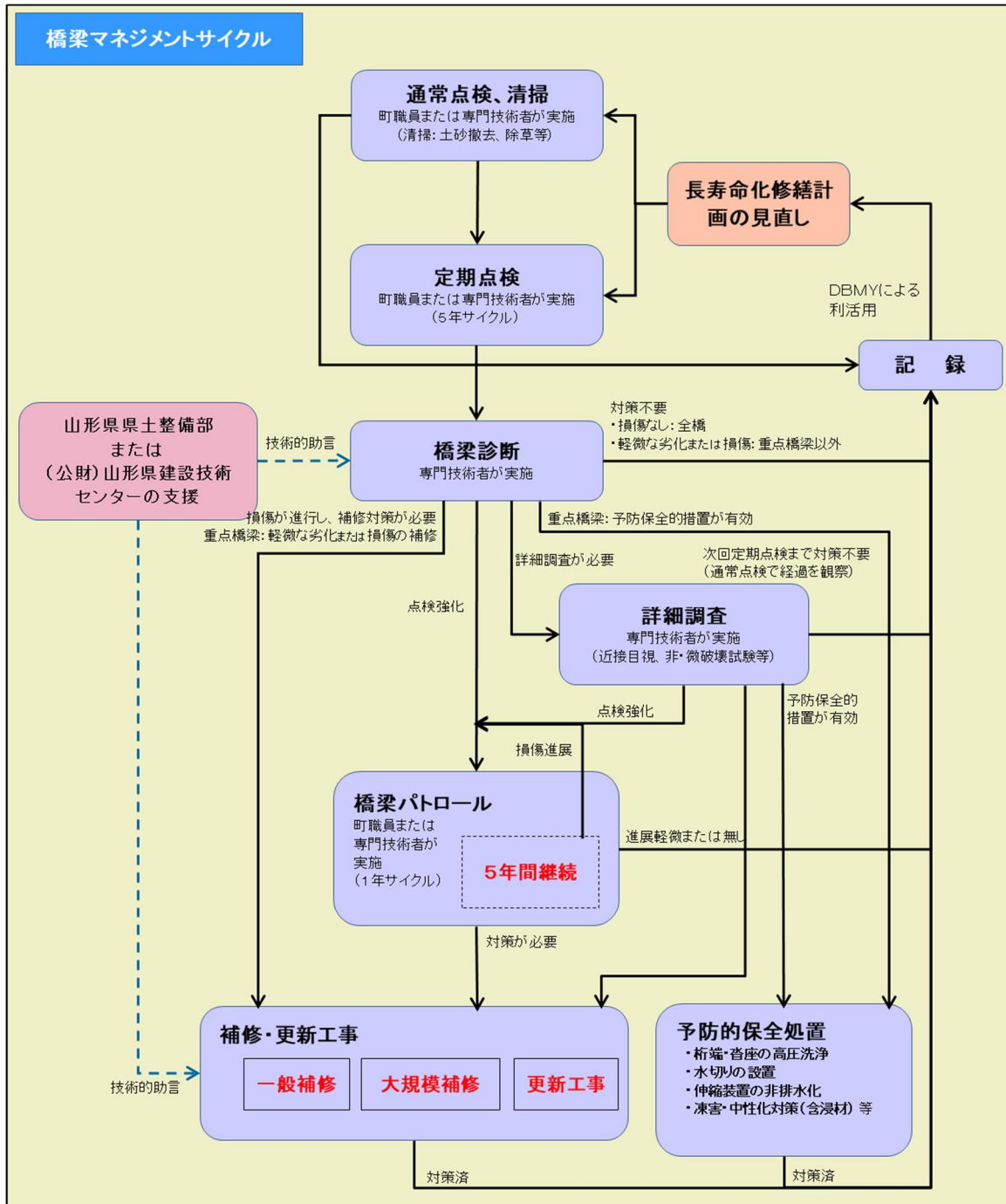


図3-1 検討フロー

### 3. 橋梁長寿命化修繕計画の基本方針

#### ■ 老朽化対策における基本方針

- ・ 安全性の確保と計画的・効率的な維持管理を行うことを目的とし、道路パトロールによる通常点検と5年に1回の頻度で橋毎に行う定期点検により、橋梁の状態を早期かつ的確に判断します。
- ・ 橋梁を良好な状態に保ち、通行の安全を守るために、清掃や道路パトロールなどを実施します。
- ・ 担当職員は、橋梁の劣化や点検方法に関する研修に参加し、日常管理に役立てていきます。
- ・ 点検・診断・補修の橋梁マネジメントサイクルを定着させ、効率的かつ効果的な維持管理を実現します。

#### ■ 費用縮減に関する具体的な方針

- ・ 損傷が著しく、回復が見込めないことが想定される比較的橋長の長い橋梁において、補修では架替えと比べて経済性に劣る場合や、橋梁の供用年数が架替え時期に達した場合には、架替えの検討を行います。
- ・ 社会経済情勢や施設の利用状況等の変化に応じた適正な配置のための、橋梁の集約化・撤去縮小などによる費用の縮減を地元の意見を踏まえながら検討します。なお、対象橋梁の選定は下図のとおり行います。

① STEP1：健全度低下が顕著な橋梁を抽出

条件1	健全度Ⅲ・Ⅳ判定
-----	----------



② STEP2：道路ネットワーク（利用状況等）に着目した抽出

条件2	集落が孤立する可能性がある橋梁に該当しないこと
-----	-------------------------



③ STEP3：集約・撤去した場合の影響を考慮

条件3	迂回距離(周辺の橋梁までの距離)が短い橋梁
-----	-----------------------

図3-2. 集約・撤去選定フロー

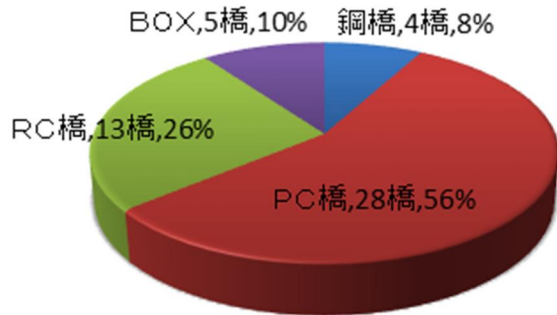
#### ■ 新技術の活用方針

- ・ 橋梁の定期点検においては、「点検支援技術性能カタログ」を参考に新技術の活用を検討します。
- ・ 橋梁修繕においては、NETIS(新技術情報提供システム)を活用し、修繕の効率化や初期コストの比較に加え、ライフサイクルコストの低減が可能な工法を検討、選定します。

## 4. 管理橋梁の現状把握

管理する橋梁の大半はPC橋が占め、RC橋、ボックスカルバート、鋼橋の順に多くなっています。橋長を見ると、橋長 100m以上の橋梁は2橋を管理しています。最も多い橋長は5m以上 15m未満の小規模な橋梁で 37 橋となり、約7割を占めています。また、跨線橋を1橋管理しています。

下表のような管理方法が考えられる。



橋梁種別	管理方針
鋼橋	定期的な再塗装により、腐食を防ぎ、長寿命化が可能
PC橋	ひび割れを許容しない構造のため、RC橋よりも厳しい対応が必要
RC橋	放置すると重大な危険を及ぼす可能性から、軽微な損傷に対しても補修を行う。
BOX	損傷しやすい部材がなく、部材管理も比較的容易であることから、長寿命化が可能

図4-1 橋梁種別ごとの橋梁数の割合

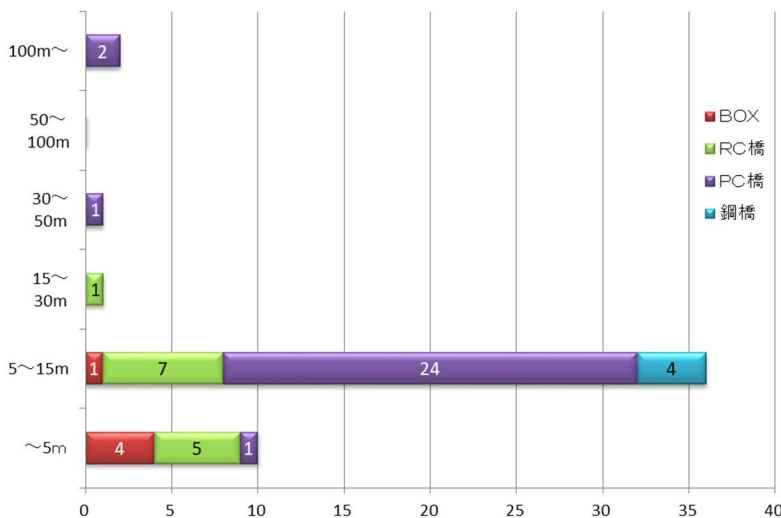


図4-2 橋長ごとの橋梁数の割合

～維持管理の補足～

### ■ 橋長 100m 以上の長大橋

- ・大規模な補修・補強や架替えは社会的影響が大きいことや膨大な費用が必要になるため重点橋梁として重点的な管理を行う

### ■ 橋長 10m 以下の小規模橋梁

- ・橋長 10m 以下の小規模橋梁を補修するにあたっては、ボックスカルバートへの更新(架替え)も検討する。



図4-3 跨線橋 (向山跨線橋)

～維持管理の補足～

### ■ 跨線橋

- ・部材の劣化進行による剥落などが、桁下利用者への被害発生の可能性がある。(第三者被害)
- ・予防的な対策により、未然に防ぐ必要がある。

## 5. 橋梁点検および健全性判定

橋梁の長期的な維持管理を実施するにあたり、橋梁の状態を把握することが最も重要になります。定期的な点検により、損傷の程度や発生個所などを明確に把握し、健全性の判定を行います。本計画で対象とする50橋について、平成28年と令和1年(一部令和3年を含む)に実施した橋梁点検による健全性を比較しました。

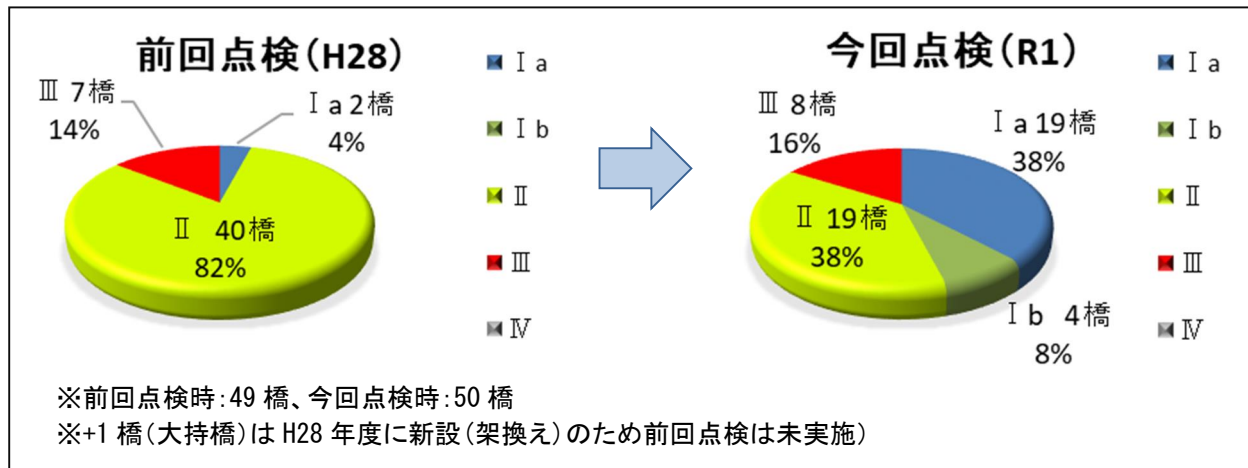


図5 橋梁点検結果前回比較

表1 健全度区分一覧

区分		内容
I a	健全	構造物の機能に支障が生じておらず、措置の必要がない状態
I b		構造物の機能に支障が生じておらず、当面措置の必要はないが、状況に応じて措置を講ずる必要もありうる状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

山形県橋梁長寿命化総合マニュアル H31.4 山形県 県土整備部 より抜粋

表2 橋梁ごとの健全性の推移結果 (平成28年度、令和元年度)

健全度の推移		橋梁数	割合
判定区分が悪化した橋梁	↗	4	8.2%
判定区分が逆転した橋梁	↘	23	46.9%
判定区分が変わらない橋梁	→	22	44.9%
合計		49	100%

※1橋(大持橋)はH28年度に新設



## 6. 維持管理区分の設定

全ての橋梁に対して予防的な管理を実施していくことが理想ですが、それには膨大な予算を必要とするため、地域環境や橋梁の特性を踏まえてメリハリを付けた管理を行うことが必要になります。

～維持管理区分の定義～

### ① 予防保全型管理(重要管理橋梁)

橋長 100m以上の長大橋と跨線橋については、大規模な補修・補強や架替えが困難であり、社会的影響が大きいことから、特に重要的に管理を行う。

### ② 予防保全型管理(主要橋梁)

主要な路線に架かる橋梁や通行不能となった場合に、道路網に支障をきたす橋梁(迂回路がない橋梁)については、損傷や劣化が顕在化する前に対策を実施する予防保全的な管理を行う。

### ③ 対症療法型管理(その他の橋梁)

①、②に当てはまらない橋梁やボックスカルバートについては、必要に応じて対策を行う事後保全的な管理を行う。

上記の維持管理区分項目から、以下のフローに従って維持管理区分を設定しています。

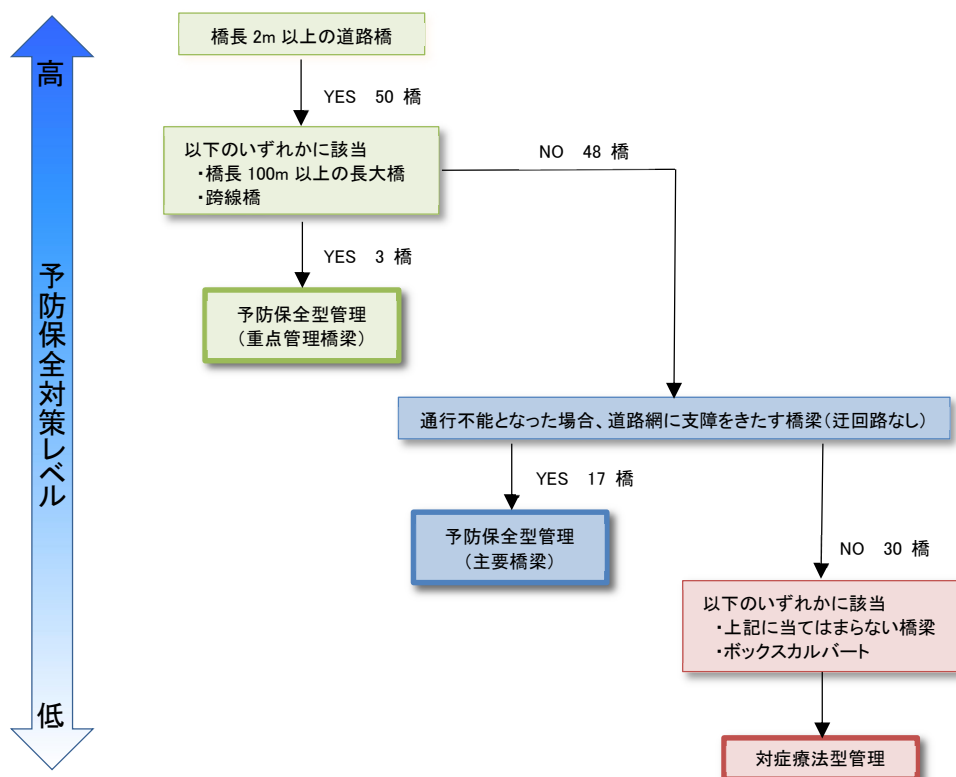


図6 維持管理区分の選定フロー

## 7. 優先度評価の実施

「道路利用者への安全・安心の提供」「橋梁の重要度の高い橋梁を優先」の観点から、優先度評価を実施します。

### ■ 評価の方針

優先順位は、優先的に対策を実施すべき橋梁を明確にすることを目的とし、「橋梁の総合評価値」と、「橋梁の重要度」により総合的に評価し順位を決定します。

本計画では下図のように優先順位を選定します。

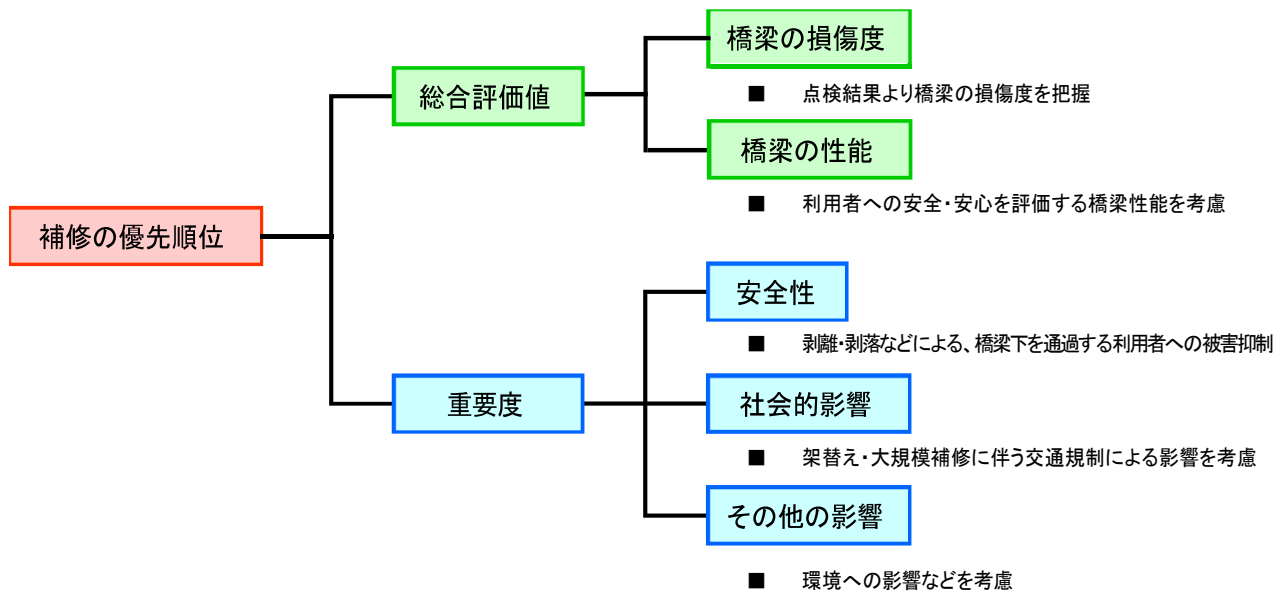


図7 優先度評価による順位選定

### ■ 評価の方針

上図の「橋梁の総合評価値」と「橋梁の重要度」の和を用いて、**優先順位を決定**します。その際、道路利用者への安全・安心に重点を置いて決定します。

## 8. 橋梁長寿命化修繕計画の策定

優先度評価に従い。高順位橋梁より順に対策を計画し、50年間の計画として橋梁長寿命化修繕計画を策定し、実際の事業を進めていきます。

### ■ 全体的な管理方針

- ・落橋等の重大な事故の発生や道路交通の支障となるような緊急的な対策を要する橋梁(Ⅳ判定)はありません。
- ・重点管理橋梁・主要橋梁について積極的な予防保全を実施します。

高 健全度 判定 区分 ↓ 低	予防保全型管理 (重点管理橋梁)	予防保全型管理 (主要橋梁)	対症療法型管理
	3 橋	17 橋	30 橋
	『特に重点的な管理』	『積極的な予防保全による管理』	『事後保全による計画的な管理』
I a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年に1度の定期的な点検。</li> <li>・ 損傷程度を記録。</li> </ul>		
I b			
II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 損傷や劣化が顕在化する前に対策を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 損傷や劣化が顕在化する前に対策を実施。</li> </ul>	
III a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水対策(床版防水・伸縮装置交換等)、塗装塗替え等を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水対策(床版防水・伸縮装置交換等)、塗装塗替え等を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある程度損傷が顕在化した後に修繕を実施。</li> </ul>
III b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模補修・架替えをしない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来的には管理が比較的容易なボックスカルバートへ移行。</li> </ul>
	← 高 維持管理区分(重要度) 低		

### ■ 修繕計画

- ・補修対策が必要な橋梁について、損傷種類や程度を考慮し、補修時期や補修方法を定めます。
- ・小規模橋梁においてⅡ判定の水回り(床版防水・伸縮装置交換等)については、簡易的な補修工法を用いて補修を検討・実施し、支承部の劣化進行を遅らせる対策を講じます。
- ・損傷が著しく、補修が不可能な橋梁または、架替えが補修よりもコスト縮減になる橋梁は架替えを実施するものとします。
- ・通行量が少なく近傍に機能が集約できる橋梁については、延命化や架替えの検討と併せて、利用状況や代替ルート確保などを考慮し集約化・撤去について検討します。

### ■ 年間予算の方針

- ・橋梁長寿命化修繕計画を策定にあたり年間予算の策定を行います。
- ・橋梁補修に関する年間予算を 20,000 千円と設定し、予算を超える事業費に関して補修の先送り、もしくは前倒しをすることにより、予算の平準化を図るものとします。

## 8. 橋梁長寿命化修繕計画の策定

### ■ 費用縮減に関する具体的な方針

コスト縮減のため、以下の対策を行います。

- ・ 令和9年度までに、健全度の低下が顕著な橋梁のうち、利用頻度が低く、迂回路が確保されている1橋に対して撤去を検討しており、今後のライフサイクルコストとして1百万円のコスト縮減を目指します。
- ・ 橋長10m程度未満の小規模な橋梁において、損傷が著しい場合はボックスカルバートへの架替えを検討します。

### ■ 新技術の活用

コスト縮減や維持管理の効率化を図るため、以下の対策を行います。

#### <橋梁定期点検>

- ・ 令和9年度までに、長大橋や高い橋脚を有する2橋について、新技術である「全方向衝突回避センサーを有する小型ドローン」の利用を検討しており、効率化および、近接目視点検の精度と安全性の向上を図ります。また、従来点検と比較して二百万円のコスト縮減を目指します。

※上記点検方法は、スクリーニング点検であり、点検の結果により必要に応じて、別途従来点検を部分的に実施するものとします。

#### <橋梁補修>

- ・ NETIS(新技術情報提供システム)を活用し、新技術工法の選定を行います。選定においては、修繕の効率化や初期コストの比較に加え、ライフサイクルコストの低減が可能かを検討します。

### ■ 日常的な維持管理

橋梁を良好な状態に保つため、以下の対策を行います。

- ・ パトロールや清掃等の実施を徹底します。
- ・ 橋梁点検や橋梁補修に関する講習会に参加し、知見や見識を深めます。

## 9. 計画策定効果の算出

橋梁点検結果を基に、今後50年間の橋の劣化を予測し、橋梁(50橋)の補修に必要な費用を算出しました。

その結果、従来の「傷んだら治す管理」である対症療法型管理では約32億円に対して、維持管理区分により決定した、長期的な視点に立つ考えである予防保全型では約9億円となりました。

比較すると、約23億円の費用縮減効果が見込めます。

これを実現するために、定期的な点検・調査、計画的な補修・補強工事、日常的な管理など、継続的な管理を行うことが重要となります。

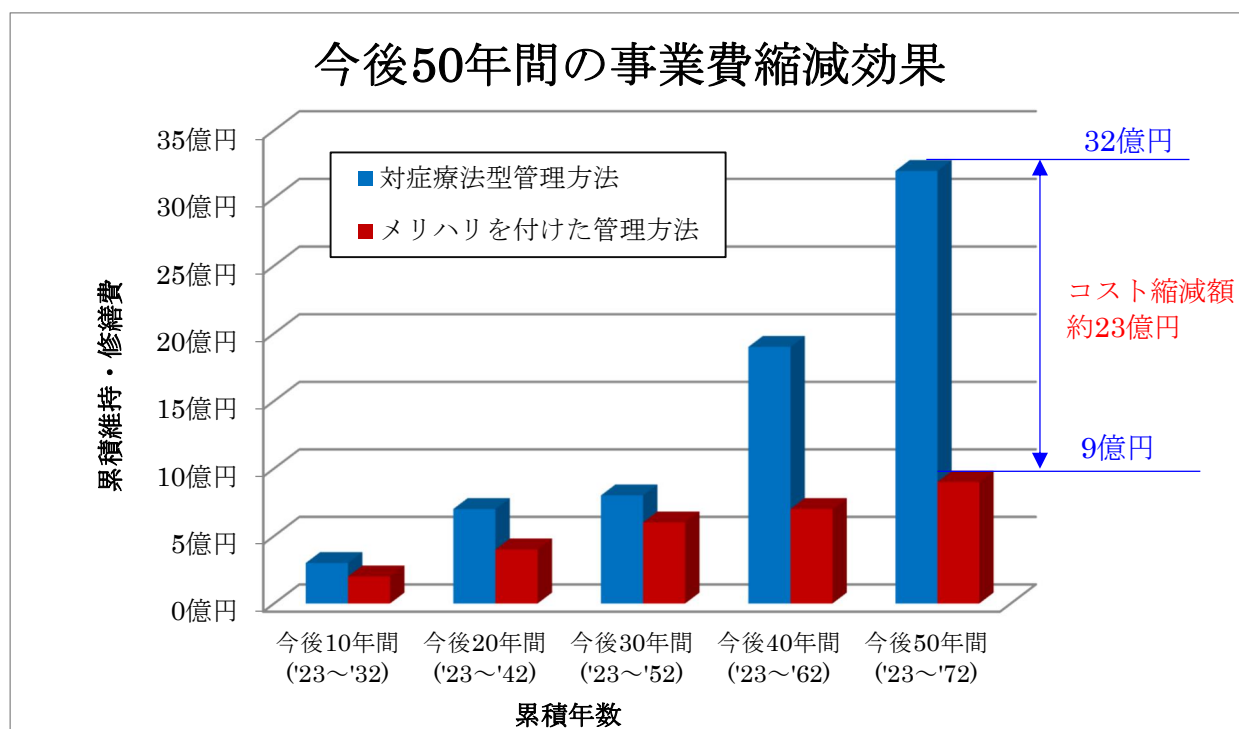


図12 計画策定・実行による費用縮減効果

なお、上記費用はあくまで予測結果であり、今後の定期的な点検や補修工事を実施していく過程で見直しを図っていくことから、確定されたものではありません。

この計画に基づき、限られた予算の中で費用縮減を図りながら効率的な補修を行い、町民の安全と安心を確保するために努めていきます。

## 10. 計画策定担当部署・意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

### ■ 計画策定担当部署

山形県 舟形町 地域整備課

### ■ 意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

山形県立産業技術短期大学 土木エンジニアリング科 千葉 陽子 教授

個別施設計画

NO	橋梁名	フリガナ	路線名	橋長(m)	幅員(m)	径間	道路部面積	建設年度	経過年数	橋種	管理区分	今回検査年度	前回検査年度	今回判定区分	前回判定区分	補修年度	主な補修履歴	概算工事費(百万円)	次回検査年度	迂回路の有無	備考
1	老ノ沢橋	オイノサワハシ	野老ノ沢林道線	14.6	4.0	1	58.4	1967	55	鋼橋	対症療法	R1	H28	II	II	R7	主部材再塗装(Rc-1),舗装打換,伸縮装置交換(両端)	11	R6	あり	R7補修予定
2	石小屋沢橋	イシゴヤサワハシ	長尾瀬見線	7.0	3.3	1	23.1	1982	40	RC橋	対症療法	R1	H28	III	III	R2	架替え		R6	あり	
3	水上沢橋	ミズカミサワハシ	長尾幅線	2.7	5.2	1	14.0	1982	40	BOXカルバート橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
4	三光壇橋	サンコウゼキハシ	長尾幅線	2.6	12.3	1	32.0	1982	40	BOXカルバート橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
5	長尾橋	ナガオハシ	長尾幅線	118.3	5.0	5	591.5	1973	49	PC橋	予防(重点)	R1	H28	II	III	R6	高欄修繕/舗装修繕	35	R6	あり	R6補修予定
6	長尾前二号橋	ナガオマエニコウハシ	内山長尾線	8.0	6.4	1	51.2	1982	40	BOXカルバート橋	対症療法	R1	H28	II	II		舗装床版防水,高欄塗装塗替,伸縮装置交換(両端)		R6	あり	
7	九郎沢橋	クノウサワハシ	幅分校線	8.5	5.5	1	46.8	1976	46	PC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
8	通草沢橋	アケビサワハシ	幅通草沢線	8.0	5.2	1	41.6	1952	70	RC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II	H27	床版、地覆、高欄、舗装、添架管		R6	あり	
9	後山橋	ウシロヤマハシ	真木野後山線	13.0	5.0	1	65.0	1982	40	鋼橋	対症療法	R1	H28	II	II				R6	あり	
10	長沢目四号橋	ナガサメヨンゴウハシ	紫山内山線	12.5	4.0	1	50.0	1982	40	PC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
11	向原橋	ムカイハラハシ	長沢中袋線	12.5	3.0	1	37.5	1976	46	PC橋	対症療法	R1	H28	II	II				R6	あり	
12	第一平石橋	ダイイチヒライシハシ	長沢平石線	19.5	6.0	1	117.0	1996	26	RC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
13	第二平石橋	ダイニヒライシハシ	長沢四号線	4.7	4.1	1	19.3	1976	46	PC橋	対症療法	R1	H28	Ib	II				R6	あり	
14	平沢一号橋	ヒラサワイチゴウハシ	舟形平沢長沢線	6.0	3.6	1	21.6	1972	50	PC橋	予防保全	R1	H28	II	II	R7	主部材断面修復,舗装打換,橋台断面修復,伸縮装置取替(両端)	6	R6	なし	R7補修予定
15	平沢二号橋	ヒラサワニゴウハシ	舟形平沢長沢線	6.0	3.3	1	19.8	1972	50	PC橋	予防保全	R1	H28	II	II	R9	舗装打換,橋台断面修復	1	R6	なし	R9補修予定
16	平沢五号橋	ヒラサワゴウハシ	舟形平沢長沢線	5.1	3.2	1	16.3	1973	49	RC橋	予防保全	R1	H28	II	II	R9	舗装打換,橋台断面修復	10	R6	なし	R9補修予定
17	奥平沢橋	オクヒラサワハシ	奥平沢名木沢線	6.4	5.0	1	32.0	1975	47	PC橋	予防保全	R1	H28	Ib	II				R6	なし	
18	夫婦四号橋	メトヨンゴウハシ	舟形夫婦三号線	4.1	4.3	1	17.6	1982	40	RC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
19	夫婦三号橋	メトサンゴウハシ	舟形夫婦四号線	3.9	3.5	1	13.7	1981	41	RC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
20	夫婦二号橋	メトニゴウハシ	舟形夫婦五号線	3.9	3.5	1	13.7	1982	40	RC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
21	夫婦一号橋	メトイチゴウハシ	舟形夫婦二号線	3.9	6.1	1	23.8	1996	26	RC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
22	元屋敷橋	モトヤシキハシ	舟形一号線	7.2	3.7	1	26.6	1970	52	PC橋	予防保全	R1	H28	II	II	R9	舗装打換	1	R6	あり	R9補修予定
23	大正橋	ダイショウハシ	舟形三号線	10.8	5.0	1	54.0	1981	41	PC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II	H27	転落防止柵修繕		R6	あり	
24	樺坂橋	ケヤキサカハシ	舟形新庄線	5.2	6.3	1	32.8	1935	87	RC橋	対症療法	R1	H28	III	III	R4	床版上部補修		R6	あり	
25	鼠沢橋	ネズミサワハシ	紫山鼠沢一号線	5.9	4.5	1	26.6	1975	47	RC橋	対症療法	R1	H28	III	III	R4	地覆高欄補修等		R6	あり	
26	七折沢橋	ナナオリサワハシ	小松線	8.1	5.0	1	40.5	1980	42	PC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
27	木友沢橋	キドモサワハシ	木友高倉山富田線	7.7	5.5	1	42.4	1977	45	PC橋	予防保全	R1	H28	II	Ia	R9	舗装打換,橋台断面修復	4	R6	なし	R9補修予定
28	中台橋	ナカダイハシ	堀内中台線	4.0	5.0	1	20.0	1989	33	BOXカルバート橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
29	荒中沢橋	アラナカサワハシ	洲崎松山立子原線	2.4	4.5	1	10.8	1971	51	BOXカルバート橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
30	洲崎橋	スサキハシ	洲崎山家真木野線	11.0	5.0	1	55.0	1966	56	鋼橋	対症療法	R1	H28	II	III	R5	主部材再塗装(Rc-1),支承金属溶射(両端)	20	R6	あり	R5補修予定
31	横沢橋	ヨコザワハシ	州崎山家真木野線	7.3	4.9	1	35.8	1967	55	PC橋	対症療法	R1	H28	II	II	R10	更新	21	R6	あり	R10更新予定
32	山家橋	ヤマガハシ	州崎山家真木野線	12.3	4.3	1	52.9	1967	55	PC橋	対症療法	R1	H28	II	II				R6	あり	
33	西又橋	ニシマタハシ	西又次子橋	10.0	4.4	1	44.0	1972	50	PC橋	予防保全	R1	H28	II	II	R8	橋台断面修復,伸縮装置取替(両端)	7	R6	なし	R8補修予定
34	荒田橋	アラタハシ	松橋荒田線	13.6	4.0	1	54.4	1986	36	PC橋	予防保全	R1	H28	Ia	II				R6	なし	
35	沢内橋	サウウチハシ	山家沢内一号線	6.1	3.2	1	19.5	1968	54	PC橋	予防保全	R1	H28	III	II	R8	舗装打換,伸縮装置交換(両端)	5	R6	なし	R8補修予定
36	菰土橋	コモツチハシ	山家沢内一号線	6.4	3.0	1	19.2	1969	53	PC橋	予防保全	R1	H28	III	II	R8	舗装打換,伸縮装置交換(両端)	4	R6	なし	R8補修予定
37	大持橋	オオモチハシ	山家沢内一号線	8.7	3.2	1	27.8	2017	5	PC橋	予防保全	R1	-	Ia	-				R6	なし	
38	葉山橋	ハヤマハシ	山家沢内二号線	6.3	3.2	1	20.2	1969	53	PC橋	予防保全	R1	H28	II	II	R9	舗装打換	1	R6	なし	R9補修予定
39	沢内一号橋	サウウチイチゴウハシ	山家沢内二号線	6.4	3.0	1	19.2	1970	52	PC橋	予防保全	R1	H28	III	III	R2	橋台裏込土の補修	4	R6	なし	※災害復旧で実施済
40	西又学校橋	ニシマタガッコウハシ	西又学校線	10.1	3.5	1	35.4	1967	55	PC橋	予防保全	R1	H28	III	III	R8	主部材断面修復,舗装打換,伸縮装置取替(両端)	5	R6	なし	R8補修予定
41	高倉山橋	タカクラヤマハシ	木友高倉山富田線	5.4	3.5	1	18.9	1987	35	RC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
42	樺沢橋	クヌギサワハシ	舟形沖の原線	5.8	5.4	1	31.3	1972	50	PC橋	対症療法	R1	H28	II	II				R6	あり	
43	きつね沢橋	キツネサワハシ	舟形沖の原線	12.0	5.1	1	61.2	1972	50	PC橋	対症療法	R1	H28	II	II				R6	あり	
44	平沢橋	ヒラサワハシ	舟形停車場線	9.9	6.2	1	61.4	1977	45	PC橋	対症療法	R1	H28	Ib	II				R6	あり	
45	新七折沢橋	シンナナオリサワハシ	沖の原長者原線	13.5	8.5	1	114.8	1994	28	PC橋	対症療法	R1	H28	Ia	II				R6	あり	
46	矢弓一号橋	ヤギユウイチゴウハシ	富田浄水場線	4.0	4.2	1	16.8	1996	26	RC橋	予防保全	R1	H28	Ib	II				R6	なし	
47	一の関大橋	イチノセキオオハシ	一の関若あゆ大平線	246.5	8.5	3	2095.3	1998	24	PC橋	予防(重点)	R1	H28	III	II	R11~14	舗装打換	20	R6	あり	R11~14補修予定
48	向山跨線橋	ムカイヤマコセンキョウ	一の関若あゆ大平線	34.0	9.0	1	306.0	1998	24	PC橋	予防(重点)	R3	H28	II	II	R9	舗装打換	12	R8	あり	R9補修予定
49	平沢六号橋	ヒラサワロクゴウハシ	舟形平沢長沢線	6.9	3.1	1	21.4	1999	23	鋼橋	予防保全	R1	H28	II	II	R7	主部材再塗装(Rc-1),舗装打換	3	R6	なし	R7補修予定
50	平沢七号橋	ヒラサワナナゴウハシ	舟形平沢長沢線	7.0	3.6	1	25.2	1999	23	RC橋	予防保全	R1	H28	Ia	Ia				R6	あり	
51	南窪橋	ミナミクボハシ	松橋一号線	14.1	3.6	2	50.8	1978	44	鋼橋	-	R1	H28	III	III	R5	撤去予定		-	あり	R4計画対象外